

伸・魅力通信

SDGsで世界とつながり自分が貢献できることを考える

12月14日、袋井中学校の2年生で「SDGs 世界同時授業」を行いました。生徒たちは、事前に各学校の授業で学んだことや取組、実践報告などの動画を「ロイロノート」を使って共有しました。14日の授業では、その動画について「ZOOM」というビデオ会議アプリを使って質問や感想などを共有するための話し合いを行いました。この授業には、日本、中国、シンガポール、タイ、マレーシア、ブラジル、サウジアラビア、オーストリアなど多くの国の小・中・高校生が参加して交流をしました。



授業の様子は、SBSテレビのオレンジという番組で放送されました。YouTubeにもその映像がアップされています。

→<https://www.youtube.com/c/SBSnews6>



〈生徒の感想〉

- ・まず、他人事、自分は関係ないと思うのではなく、自分事として考えていき、自分にはどんなことができるか、小さなことでも自分たちにできることを探してみることがSDGsを実現するために、自分にできる行動だと思います。
- ・他の国で文化が違ってても差別をしないようにしたいです。
- ・自分はグループで考えた4Rを意識し、マイバッグを使い買い物をする事でCO₂の排出量を少しでも少なくしようと思っています。必要なものを必要なだけ買う意識もしようと思っています。
- ・私たちがふつうに生活していても、その裏では不自由な生活をしている人がたくさんいるので、その人たちのために私たちができる精一杯のことをしたいです。



「自分の住んでいる地域をきれいにすることで、SDGsへの貢献と地域の人と協力して活動することの楽しさを感じることができた」と、地域の活動に積極的に参加する生徒も見られるようになりました。幼小中一貫カリキュラムがねらう、「**主体性**」と「より良い地域を目指して自分たちに何ができるのかを考える」の芽が育っています。

